

安定的な生産体制を整備するとともに メニューの提案力に磨きをかけ 確実な目標達成に向けて進んでまいります

企業理念
「食を通じて
世の中に貢献する。」

グループ経営理念
「心身(こころ・からだ・
いのち)と環境」

グループ経営方針
「サラダNo.1企業を目指す。」
「品質、サービスで日本一になる。」

株主ならびに投資家の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
中期経営計画『KENKO Five Code 2015-2017』は順調に進捗しており、
さらなる成長に向けた大型投資も積極的におこなってまいります。
ここに当期業績のご報告とあわせて、将来に向けた取り組みをご紹介します。

代表取締役社長 **炭井 孝志**



2016年度の業績に対する 総括・ご評価をお聞かせください。

当期の業績は、連結売上高708億円、連結経常利益40億円、当期純利益28億円となり、いずれも前連結会計年度を上回り過去最高となりました。天候不順により、じゃがいも等の調達コストがかさみましたが、サラダ類、マヨネーズ・ドレッシング類、タマゴ類の各分野で順調に売上を伸ばし、吸収することができました。特に、サンドイッチや総菜パン用のタマゴサラダや業務用小型化戦略としてのロングライフサラダが大きく売上を伸ばしたこともあり、増収増益を達成することができました。

また、さらなる成長への足がかりとして、グループ生産拠点の再構築に着手しました。自社工場では、タマゴ加工品の需要増加に対応して静岡富士山工場の増築と、特にポテトサラダ等のロングライフサラダの需要増加に対応して西日本工場の増築を計画して

当社のビジネスフィールド



“サラダの未来は 私たちの未来”

『業務用食品メーカー』としてプロ向けの商品を提供し、
様々な食シーンを彩る市場演出型企業です。

当社はプロ向けの商品を製造・販売しており、外食や中食産業を支える“縁の下の力持ち”として、皆様の生活に自然に溶け込んでいる企業です。市場ニーズに応える商品開発力と、様々な業態に対するきめ細やかなメニュー提案力で、事業の成長・発展とともに市場を活性化させてまいります。

います。連結子会社においては、北海道の(株)ダイエツトフック白老が、フレッシュ総菜やロングライフサラダの生産増強を目指して、(株)関東ダイエツトフックが、首都圏向けのフレッシュ総菜の新たな生産拠点として、それぞれ新工場を建設します。

この4拠点については2019年3月までの稼働を目指しており、投資総額は150億円を超える大型投資となります。財務基盤の安定を図りながら、積極的に投資をおこなうため、当期は6年ぶりの公募増資を実施し、資金調達をおこないました。

中期経営計画『KENKO Five Code 2015-2017』の進捗について お聞かせください。

ケンコーマヨネーズは、「サラダNo.1企業を目指す。」ことをグループ経営方針に掲げています。
私たちの事業は、単にマヨネーズやドレッシング

などの商品を販売するのではなく、野菜を中心に、様々な食材と調味料の組み合わせや調理方法を創意工夫することで、食卓のメインディッシュにもなる「サラダ料理」を創造・提案することだと考えています。

この方針に基づき、2015年からの中期経営計画『KENKO Five Code 2015-2017』では、

- ① 『サラダNo.1 (Leading company)』のポジションを確立
- ② 「サラダ料理」の更なる進化
- ③ グローバル市場への積極展開を進める経営基盤強化

という3つの経営戦略を掲げて、サラダを中心とした事業拡大を進めています。

2016年には、ドレッシングの幅広い楽しみ方を多くの方に知っていただくため、毎年8月24日を「ドレッシングの日」と申請し、一般社団法人 日本記念日協会から登録認定されました。これを記念したイベント「サラダドレッシングパーティー」を、昨年8月27日に中野セントラルパークにて開催しました。